

Asia Indicators

発表日: 2021年8月20日(金)

豪州、7月の失業率は予想外に改善したが... (Asia Weekly(8/13~8/20))

～感染再拡大を受けて大都市部で悪化しており、今後は調整が避けられない模様～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 西濱 徹 (TEL: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
8/13(金)	(香港)4-6月実質 GDP(前年比・改定値)	+7.6%	+7.5%	+7.5%*
8/16(月)	(フィリピン)6月海外送金(前年比)	+7.0%	--	+13.1%
	(中国)7月鉱工業生産(前年比)	+6.4%	+7.8%	+8.3%
	7月小売売上高(前年比)	+8.5%	+11.5%	+12.1%
	7月固定資産投資(年初来前年比)	+10.3%	+11.3%	+12.6%
	(タイ)4-6月実質 GDP(前年比)	+7.5%	+6.4%	▲2.4%
8/18(水)	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	0.25%	0.50%	0.25%
	(香港)7月失業率(季調済)	5.0%	--	5.5%
8/19(木)	(豪州)7月失業率(季調済)	4.6%	5.0%	4.9%
	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	3.50%	3.50%	3.50%
	(香港)7月消費者物価(前年比)	+3.7%	--	+0.7%

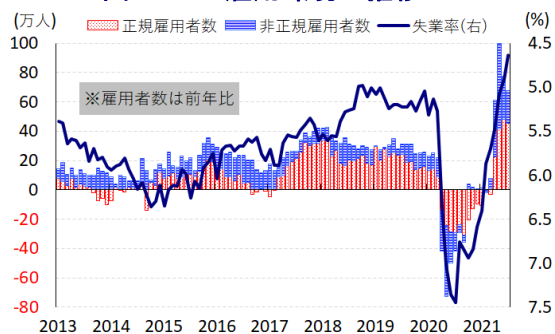
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。※は速報値

[豪州]～失業率は予想外の低下も感染再拡大を受けて内容は悪化、今後は悪化の度合いを強める可能性も～

19日に発表された7月の失業率(季調済)は4.6%となり、前月(4.9%)から0.3pt改善した。失業者数は前月比▲4.0万人と前月(同▲2.2万人)から9ヶ月連続で減少しており、雇用形態別でも非正規雇用に対する求職者数(同▲1.8万人)のみならず正規雇用に対する求職者数(同▲2.2万人)もともに減少している上、中期的な基調も減少傾向を強めている。一方の雇用者数は前月比+0.2万人とペースは大きく鈍化するも前月(同+2.9万人)から3ヶ月連続で拡大しており、雇用形態別では非正規雇用者数(同+0.6万人)が拡大する一方で正規雇用者数(同▲0.4万人)は減少するなど対照的な動きがみられるほか、中期的な基調も拡大傾向は続くもペースは鈍化するなど頭打ちの兆しがうかがえる。地域別でも、原油をはじめとする国際商品市況の上昇の動きを反映して鉱物資源産業が集積する南オーストラリア州や西オーストラリア州などで底堅い動きがみられる一方、変異株の流入による新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染拡大に見舞われるなど行動制限が再強化されている最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州などでは調整圧力が強まるなど対照的な動きがみられる。また、感染動向の急激な悪化や行動制限の再強化を受けて労働力人口は前月比▲3.8万人と前月(同+0.7万人)から3ヶ月ぶりの減少に転じており、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど頭打ちしている。結果、労働参加率は66.0%と前月(66.2%)から▲0.2pt低

下しており、失業率は低下するなど一見改善しているものの、内容は悪化していると捉えられる。足下では感染動向が一段と悪化して行動制限が長期化していることを勘案すれば、雇用を取り巻く環境は急速に悪化することも懸念される。

図1 AU 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～感染一服で内需は底入れも中国本土経済の不透明感が外需の重石となり、景気の「攻守」は逆転～

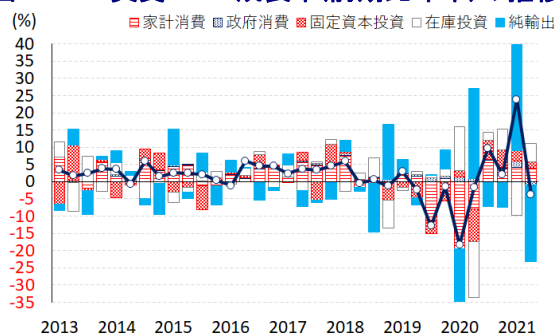
13日に発表された4-6月の実質GDP成長率(改定値)は前年同期比+7.6%となり、先月末に発表された速報値(同+7.5%)から+0.1pt上方改定された。前期比年率ベースの成長率も▲3.65%と前期(同+23.92%(同+23.53%から上方改定))から4四半期ぶりのマイナス成長となっているものの、速報値(同▲3.94%)から上方改定されている。香港域内における新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染拡大一服を受けた行動制限の解除の動きに加え、新型コロナ禍を経て大きく調整した雇用が底打ちしていることも相俟って家計消費に底堅い動きがみられるほか、世界経済の回復期待を追い風に企業部門による設備投資の動きも底打ちするなど、内需を取り巻く状況は総じて改善している。一方で中国本土景気が踊り場状態にあることを反映して外需に下押し圧力が掛かっているほか、政府による景気下支え策の効果が一巡していることで政府消費も鈍化するなど、昨年後半以降における景気回復のけん引役となった動きが一転して足を引っ張っている様子がうかがえる。

18日に発表された7月の失業率(季調済)は5.0%となり、前月(5.5%)から0.5pt低下して16ヶ月ぶりの低水準となるなど改善が進んでいる。失業者数は前年同月比▲4.5万人と2ヶ月連続で減少しており、前月(同▲2.9万人)からそのペースが加速している上、不完全雇用者数も同▲4.5万人と前月(同▲4.8万人)からペースは鈍化するも3ヶ月連続で減少するなど、失業及び雇用を巡るミスマッチの解消が続いている様子がうかがえる。一方の雇用者数も前年同月比前年同月比+0.3万人と2ヶ月連続で拡大しており、前月(同+0.2万人)からわずかながらペースも加速するなど底入れが進んでいる。新型コロナウイルスの感染一服による経済活動の正常化の動きを反映して、新型コロナ禍による深刻な影響が直撃した小売関連や観光関連を中心に雇用の底入れが進んでいるほか、建設関連や娯楽関連などでも改善の動きが進むなど、幅広い分野で雇用を取り巻く環境が改善している。

19日に発表された7月の消費者物価は前年同月比+3.7%となり、前月(同+0.7%)から大幅に加速して2016年8月以来となる高い伸びとなった。前月比も+0.10%と前月(同▲0.30%)から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、国際原油価格の上昇を反映してエネルギー価格が押し上げられているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇傾向が続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっている

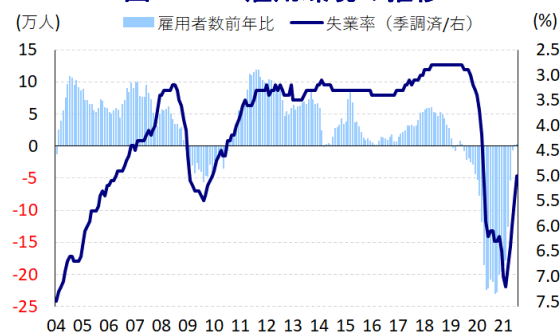
ことが影響している。なお、香港においては 2007 年以降断続的に中低所得者層を対象に公営住宅の賃料減免措置をはじめとする生活支援時補助金による物価対策が実施されているが、その影響を除いたベースでも前年同月比+1.0%と前月（同+0.4%）から加速して 13 ヶ月ぶりの伸びとなっている。前月比も+0.10%と前月（同+0.00%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストへの押し上げ圧力が幅広く消費財価格の上振れに繋がっているほか、経済活動の正常化の広がりを受けてサービス物価も押し上げられるなど、全般的にインフレ圧力が強まっている。

図 2 HK 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移



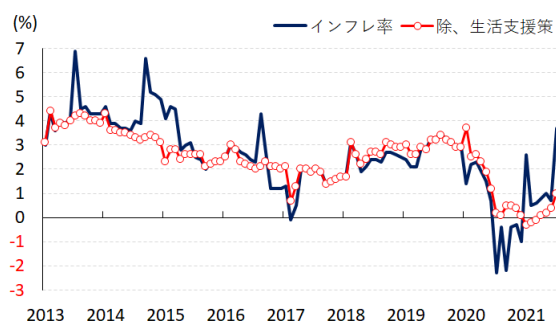
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図 3 HK 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図 4 HK インフレ率の推移

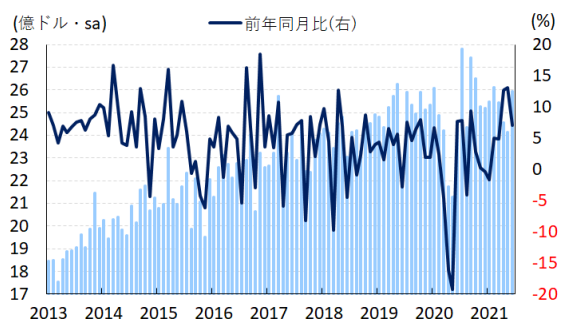


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン]～主要国の景気回復や原油高も追い風に海外送金は底打ち、内需の押し上げが期待される～

16 日に発表された 6 月の海外移民労働者による送金流入額は前年同月比+7.0%となり、前月（同+13.1%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は 4 ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど頭打ちの動きをみせてきた状況は一転底打ちしている。国・地域別では、最大の流入元となっている米国からの流入は景気の堅調さを反映して底入れしているほか、国際原油価格の上昇による景気底入れの動きは中東からの流入を押し上げている上、欧州からの流入も大きく底入れするなど、幅広い地域からの流入が押し上げられている。また、同月は国際金融市場において通貨ペソの対ドル相場に下押し圧力が掛かりペソ建てで換算した流入額が押し上げられる動きがみられるなど、家計消費をはじめとする内需を押し上げることが期待される。

図5 PH 海外送金の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。